

令和4年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的な知識を確実に定着させるため、単元ごとに確認テストを行い、つまづいている生徒への補習を行った。
- ・社会科に対する興味関心を高めるため、ICTや新聞記事などの教材を活用し、考えさせる時間を多く設け、学習内容に対する興味・関心を引き出す授業展開を目指した。

(2) 課題

- ・全学年習熟度の差が大きく、家庭学習の習慣化ができていないため、知識が定着していない。
- ・習得した知識・技能を活用し、自ら考えたり表現したりする力に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。しかし、校内平均正答率は前年度より7ポイント上がっている。	/
第2学年	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。しかし、前年度と比べて思考・判断・表現の数値は上昇しており、授業改善の成果が若干見られる。	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。知識・技能に関する数値が低く基礎・基本的な力を定着させる必要がある。 (第1学年時)
第3学年	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。しかし、前年度と比べて基礎正答率は上昇しており、授業改善の成果が見られる。	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。しかし、前年度と比べて全観点の数値は上昇しており、授業改善の成果が若干見られる。	全ての観点に関して区平均正答率を下回っている。特に思考・判断・表現の数値が低く、授業改善の必要がある。 (第2学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「知識・理解」の項目が他の評価項目と比較して低いことから、資料の読み取りの活動等で得た学びを「知識」として確実に定着できていない状況があると考えられる。習熟度の差も大きく、基礎的な内容を確実に定着させる課題を定期的に行うなど、個に応じた指導をさらに展開していくことも必要である。	前年度と比較して、数値が低いことから、資料の読み取り活動や話し合い活動など授業内で考えさせる時間を多く取りながら授業改善を行っていく。今後も継続して、社会的事象を多面的・多角的に読み取る指導を行っていく。	「社会科に対する関心・意欲・態度」に関しては区平均正答率を下回るが、おおむね目標値に近い値であり、授業改善の成果が表れている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能の項目が、他の評価項目と比較して高いことから、小学校での学習内容が比較的定着していると考えられる。	思考・判断・表現の項目に関しては、区平均正答率を下回るが、おおむね目標値に近い値である。記述問題の校内平均正答率は、目標値を上回っている。	主体的に学習に取り組む態度の項目に関しては、区平均正答率を下回っているが、前年度の校内平均正答率と比較すると、上昇している。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前年度と比べて「知識・技能」の数値は上昇している。単元毎の確認テストなど基礎基本的な力の習得に向けた授業改善の成果が見られる。今後も継続して知識を習得するための取り組みを行っていく。	前年度と比較して、あまり数値の上昇は見られない。今後も単元毎に課題を設定し、社会的事象を多面的・多角的に読み取る指導を行っていく。	「社会科に対する関心・意欲・態度」に関しては区平均正答率を下回っている。単元の振り返りなどを継続して行い、授業改善をしていく。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト・ワークシートの作業を継続的に行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。単元ごとの振り返り、まとめの時間を確保し、習得した知識を活用する場面を継続的に設定することで知識の確実な習得と活用の機会を設けていく。	毎単元、「本時の課題」を提示し、学習した内容から考察した自分の考えを表現することで、習得した知識・技能を活かした思考・判断・表現力の向上を図る。	単元評価シートを活用。大単元ごとに「単元を貫く学習課題」を設定、第1時で予想を立てさせ、大単元の最後に振り返りを行い、結果と考察を踏まえたまとめを行い、学習の成果を考察する機会を設けていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日頃から家庭学習の習慣の定着化を図るために、副教材のワークブックなどのくりかえし学習をこれまで以上に頻繁に行って、基礎的・基本的な知識のさらなる定着を図っていく。	資料の読み取りのための時間を、授業内でさらに多めに取る。読み取った内容をワークシートにまとめさせるようにして、生徒の思考を深める指導を進めていく。	単元の節目で「ふりかえりシート」を実施して、学習の成果を考察させる指導を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークシートなどを用いた資料の読み取りなどの作業に、これまで以上に時間をかけて、資料活用に慣れさせることが大切である。単元ごとの振り返り、まとめの時間を確保し、習得した知識を活用する場面を継続的に設定することで知識・技能の確実な習得と活用の機会を設けていく。	各小単元に応じた疑問を提示し、複数の資料から読み取れる予想や自分の考えを事前に記述させることで社会的事象を幅広く考察していく基盤を養う。また、自らの意見を伝え、他者の意見に触れる機会を充実させる。	単元評価シートを活用。大単元ごとに「単元を貫く学習課題」を設定、第1時で予想を立てさせ、大単元の最後に振り返りを行い、結果と考察を踏まえたまとめを行い、学習の成果を考察する機会を設けていく。